(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2014-70363
(P2014-70363A)
(43)公開日　平成26年4月21日(2014.4.21)

(51)Int.Cl.	F I	テーマコード（参考）
E04F 19/04 (2006.01)	E04F 19/04 101A	

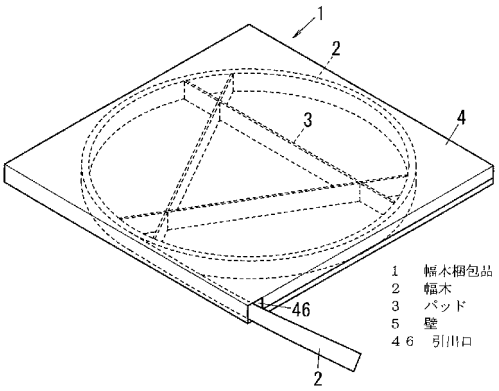
審査請求 未請求　請求項の数 8　OL　（全 14 頁）

(21)出願番号　特願2012-215631 (P2012-215631)
(22)出願日　平成24年9月28日 (2012.9.28)

(71)出願人　000005821
パナソニック株式会社
大阪府門真市大字門真１００６番地
(74)代理人　100087767
弁理士　西川　惠清
(74)代理人　100155745
弁理士　水尻　勝久
(74)代理人　100161883
弁理士　北出　英敏
(74)代理人　100162248
弁理士　木村　豊
(72)発明者　信田　真一郎
大阪府門真市大字門真１００６番地　パナソニック株式会社内

(54)【発明の名称】幅木梱包品及びこれを用いた幅木の施工方法

(57)【要約】
【課題】幅木を小さくロール状に巻いた状態で保管することができ、幅木の施工や持ち運びが容易で且つ幅木が汚れ難い幅木梱包品及びこれを用いた幅木の施工方法を提供する。
【解決手段】湾曲変形可能で且つ切断可能な帯状の幅木２を備える。ロール状に巻いた幅木２を回動可能に収納する梱包箱４を備える。梱包箱４が、巻かれた状態で前記梱包箱４に収納された幅木２を引き出すための引出口４６を有する。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
湾曲変形可能で且つ切断可能な帯状の幅木と、ロール状に巻いた前記幅木を回動可能に収納する梱包箱を備え、前記梱包箱が、前記巻かれた状態で前記梱包箱に収納された前記幅木を引き出すための引出口を有することを特徴とする幅木梱包品。
【請求項２】
前記幅木の曲げ弾性率が１４００ＭＰａ以上１６００ＭＰａ以下であることを特徴とする請求項１に記載の幅木梱包品。
【請求項３】
前記幅木が前記梱包箱に内径寸法を８００ｍｍ以上１０００ｍｍ以下として巻かれた状態で収納されることを特徴とする請求項１又は請求項２に記載の幅木梱包品。
【請求項４】
前記幅木が巻き取られるパッドを備え、前記幅木が前記パッドに巻き取られた状態で前記梱包箱に収納されることを特徴とする請求項１乃至３のいずれか１項に記載の幅木梱包品。
【請求項５】
前記幅木がその表面を外側に向けて巻かれた状態で前記梱包箱に収納されることを特徴とする請求項１乃至４のいずれか１項に記載の幅木梱包品。
【請求項６】
請求項１乃至５のいずれか１項に記載の幅木梱包品を用いた幅木の施工方法であって、前記幅木を前記梱包箱の前記引出口から引き出しながら壁に接着することを特徴とする幅木の施工方法。
【請求項７】
前記壁に接着された幅木にピンネイルを打ち込んで前記壁に固着することを特徴とする請求項６に記載の幅木の施工方法。
【請求項８】
前記引出口から引き出された幅木を前記壁の隅部又は端部に対応する部分で切断することを特徴とする請求項６又は請求項７に記載の幅木の施工方法。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は梱包箱に幅木を梱包した幅木梱包品、及びこれを用いた幅木の施工方法に関する。
【背景技術】
【０００２】
特許文献１には柔軟弾性を有する幅木が開示されている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２００３－１８４２９５号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
ところで、湾曲変形可能な幅木はロール状に巻くことが可能である。しかし、このようにロール状に巻いた幅木はその弾性力によって外側に広がりやすく、小さなロール状にした状態で維持することが難しい。このため、幅木の施工がし難く、また、持ち運びもし難い。また、長尺な幅木が広がった状態で作業スペースに置かれると、作業スペースを狭めてしまい、この点でも施工性が良くない。また、ごみや埃等によって幅木が汚れる可能性もある。
【０００５】

本発明は前記事情に鑑みてなされたものであって、幅木を小さくロール状に巻いた状態で且つ幅木が汚れ難い状態で保管することができ、幅木の施工や持ち運びが容易な幅木梱包品及びこれを用いた幅木の施工方法を提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

前記課題を解決するために本発明の幅木梱包品は、湾曲変形可能で且つ切断可能な帯状の幅木と、ロール状に巻いた前記幅木を回動可能に収納する梱包箱を備え、前記梱包箱が、前記巻かれた状態で前記梱包箱に収納された前記幅木を引き出すための引出口を有することを特徴とする幅木梱包品。

【０００７】

また、前記幅木の曲げ弾性率が１４００ＭＰａ以上１６００ＭＰａ以下であることが好ましい。

【０００８】

また、前記幅木が前記梱包箱に内径寸法を８００ｍｍ以上１０００ｍｍ以下として巻かれた状態で収納されることが好ましい。

【０００９】

また、前記幅木が巻き取られるパッドを備え、前記幅木が前記パッドに巻き取られた状態で前記梱包箱に収納されることが好ましい。

【００１０】

また、前記幅木がその表面を外側に向けて巻かれた状態で前記梱包箱に収納されることが好ましい。

【００１１】

また、本発明の幅木の施工方法は、前記幅木梱包品を用いた幅木の施工方法であって、前記幅木を前記梱包箱の前記引出口から引き出しながら壁に接着することを特徴とする。

【００１２】

また、前記壁に接着された幅木にピンネイルを打ち込んで前記壁に固着することが好ましい。

【００１３】

また、前記引出口から引き出された幅木を前記壁の隅部又は端部に対応する部分で切断することが好ましい。

【発明の効果】

【００１４】

本発明にあっては、ロール状に巻いた幅木をその外側を梱包箱によって支持した状態で梱包箱に収納することができ、幅木を小さくロール状にした状態で保管することができる。また、これにより幅木の施工や持ち運びが容易になる。また、幅木は梱包箱に収納して汚れ難い状態で保管することができる。また、幅木を施工する際には、梱包箱に巻かれた状態で収納された幅木を引出口から引き出しながら壁に取り付けることができ、この点でも施工がしやすい。

【図面の簡単な説明】

【００１５】

【図１】本発明の実施形態の幅木梱包品であって、梱包箱から幅木を引き出した状態を示す斜視図である。

【図２】同上のパッド及びこれに巻きつけた幅木を示す斜視図である。

【図３】同上の幅木の側面図である。

【図４】同上の梱包箱の展開図である。

【図５】（ａ）は同上の支持片の側面図であり、（ｂ）は同上の支持片の展開図である。

【図６】同上の幅木の施工状態を示す断面図である。

【図７】同上の梱包箱に引出口を形成する様子を示した斜視図である。

【図８】同上の引出口を形成する前の梱包箱の斜視図である。

【図９】同上の幅木が施工される壁に接着剤を塗布する様子を示した斜視図である。

【図１０】同上の幅木を壁に施工する様子を示した斜視図である。
【図１１】入隅用の接続具を示し、（ａ）は表面側から見た斜視図であり、（ｂ）は裏面側から見た斜視図である。
【図１２】出隅用の接続具を示し、（ａ）は表面側から見た斜視図であり、（ｂ）は裏面側から見た斜視図である。
【図１３】同上の幅木を入隅用の接続具で接続して施工した状態を示す斜視図である。
【図１４】同上の幅木を出隅用の接続具で接続して施工した状態を示す斜視図である。
【図１５】同上の幅木を入隅用の接続具で接続して施工した状態を示す水平断面図である。
【図１６】他例の幅木を示す側面図である。
【図１７】他例のパッドに幅木を巻き付けた様子を示す平面図である。
【発明を実施するための形態】
【００１６】
以下、本発明を添付図面に基づいて説明する。図１に示されるように本実施形態の幅木梱包品１は、幅木２、パッド３、及び梱包箱４を備えている。幅木２はパッド３にロール状に巻き取られた状態でパッド３と共に梱包箱４に収納される。
【００１７】
図３には幅木２の側面図が示されている。幅木２は押出成形品であって、帯状の本体部２０と、本体部２０から下側に向けて突出したひれ状部２１を備えている。幅木２の本体部２０は厚さが５ｍｍ以下であり、その本体部２０は湾曲変形可能で且つ切断可能な合成樹脂で構成されている。具体的には、幅木２として、曲げ弾性率が１４００ＭＰａ以上、１６００ＭＰａ以下のいわゆる半硬質のものが用いられる。
【００１８】
本体部２０の材料としては、ポリプロピレン、ＡＢＳ（acrylonitrilebutadiene styrene）、ＥＶＡ（Ethylence-Vinyl Acetate）、塩化ビニル等が用いられる。幅木２のひれ状部２１は本体部２０よりも軟らかい材料によって形成される。ひれ状部２１の材料としては、例えばオレフィン系エラストマー（ＴＰＯ）等の軟質の材料が用いられる。
【００１９】
本体部２０の表面（前面）の上部には、本体部２０の長手方向と平行な凹溝２００が本体部２０の長手方向に亘って形成されている。凹溝２００は溝深さが１ｍｍ以下、開口幅が２ｍｍ以下に設定されており、表面側から見たときに目立ち難くなっている。
【００２０】
凹溝２００の上側の溝側面は本体部２０の幅方向（上下方向）と直交している。凹溝２００の下側の溝側面は溝奥側に行く程上方に位置するように傾斜したガイド面２０１となっている。凹溝２００の底部を構成する奥面は本体部２０の厚み方向と直交し、本体部２０の表面と平行である。すなわち、凹溝２００は溝奥側（後側）程溝幅が小さくなる断面台形状に凹んでいる。
【００２１】
本体部２０の裏面（後面）の下部には後方に開口する凹部２０２が形成されている。凹部２０２は本体部２０の長手方向に亘って形成された溝であって、断面矩形状に凹んでいる。凹部２０２の溝幅は凹溝２００の溝幅よりも大きくなっている。
【００２２】
本体部２０の上端面の裏面側端部は裏面側に行く程下方に位置するように傾斜した傾斜面２０３となっている。すなわち、本体部２０の裏面と上端面とでなす隅部はＣ面取り状に形成されている。本体部２０の表面と上端面とでなす隅部はＲ面取り状に形成されており、本体部２０の表面と下端面とでなす隅部はＣ面取り状に形成されている。また、図示は省略するが、本体部２０の表面にはトップコート層が形成されている。また、本体部２０の裏面にはプライマー塗料が塗布されてプライマー層が形成される。なお、トップコート層やプライマー層は省略可能である。
【００２３】

ひれ状部２１は本体部２０の長手方向に亘って形成されている。ひれ状部２１は本体部２０の下端面から下側に向けて突出している。ひれ状部２１の厚み（前後幅）は下側に行く程小さくなっており、その下端部は尖っている。ひれ状部２１は下方に行くにつれて後方に位置するように湾曲している。

【００２４】

帯状の幅木２を巻き付けるためのパッド３は、図５（ａ）に示される帯状の支持片３０を複数有している。本実施形態のパッド３は３つの支持片３０で構成されている。各支持片３０は、図５（ｂ）に示される帯状の段ボール材を幅方向の中心で二つ折りすることで形成される。図５（ａ）に示されるように各支持片３０の長手方向の一端部には第一切溝３００が形成され、他端部には第二切溝３０１が形成されている。両切溝３００、３０１は共に支持片３０の幅方向外側に向けて開口するが、その開口方向は逆方向である。パッド３の隣り合う支持片３０は、一方の支持片３０の長手方向において第一切溝３００に対応する部分を、他方の支持片３０の第二切溝３０１に差し込むことで連結される。図２に示されるように各支持片３０の長手方向の両端部は同一円周上に位置し、パッド３に巻き取られた幅木２を内側から支持する支持部３０２を構成する。

【００２５】

幅木２は凹溝２００が形成された表面をパッド３の外側に向けた状態でパッド３に巻き取られる。幅木２は例えばその内径寸法が８００ｍｍ以上１０００ｍｍ以下の範囲内に収まるように連続して２０ｍ程度パッド３に巻き取られ、パッド３の周囲に複数回周回している。本実施形態の幅木２はその内径寸法が９００ｍｍとなるようにパッド３に巻き取られている。

【００２６】

梱包箱４は段ボール製で扁平な正方形箱状に形成されている。図４には梱包箱４を展開した状態が示されている。梱包箱４は、天面を構成する上面板部４０、底面を構成する２つの下面板部４１、端面を構成する四つの端面板部４２、及び、２つの差込板部４３を有している。

【００２７】

矩形状の上面板部４０の各辺には端面板部４２が接続されている。以下、特に区別する場合には、端面板部４２のうち、箱状に組み立てたときに対向する一対の端面板部４２を端面板部４２０とし、他の一対の端面板部４２を端面板部４２１とする。各端面板部４２０の上面板部４０と反対側の辺には下面板部４１が接続されている。各端面板部４２１の上面板部４０と反対側の辺には差込板部４３が接続されている。

【００２８】

梱包箱４は、矩形状の上面板部４０の各辺、各端面板部４２０と下面板部４１の間の境界、及び、各端面板部４２１と差込板部４３の間の境界が直角に折り曲げられることで、箱状に組み立てられる。梱包箱４を箱状にしたとき、各差込板部４３は両下面板部４１の上面側に差し込まれる。図８に示されるように梱包箱４の両下面板部４１の端部同士は突き合わされ、両者は両下面板部４１に跨って貼り付けられた第一の粘着テープ４４によって接合される。また、各端面板部４２１と両下面板部４１の端部同士も第二の粘着テープ４５を用いて接合される。粘着テープ４４、４５としては例えばポリプロピレンテープが用いられる。

【００２９】

図８に示されるように箱状をなした梱包箱４には、パッド３及びこれに巻き取られた幅木２が収納される。この収納状態では、幅木２の幅方向が扁平な梱包箱４の厚み方向と平行になる。また、ひれ状部２１が梱包箱４の下面板部４１側に向けた状態とされる。正方形状の梱包箱４の各辺の長さは、パッド３に巻き取られた幅木２の外径と略同じ寸法とされる。このため、梱包箱４にパッド３に巻き取られた幅木２を収納したとき、幅木２の外周面が梱包箱４の四方の端面板部４２に近接し、これら端面板部４２によって幅木２を外側から支持することができる。ここで、「近接」とは近傍に配置された状態又は当接された状態のいずれかの状態にあることを意味する。

【００３０】
正方形状の梱包箱４の角部には、梱包箱４内にパッド３に巻き取られた状態で収納された幅木２を引き出すための引出口４６が形成される。引出口４６は図７に示されるように梱包箱４の端面板部４２１の長手方向の端部を切除することによって形成される。図８に示されるように引出口４６を形成する前の梱包箱４は、各端面板部４２１の長手方向の端部で構成された矩形状の切除部４２２を有している。各切除部４２２は端面板部４２１の幅方向に亘っている。図４に示されるように各切除部４２２の周囲、すなわち、端面板部４２１の他の部分との境界、上面板部４０との境界、及び差込板部４３との境界には、ミシン目４７が設けられている。そして、図７に示されるように切除部４２２の周囲にあるミシン目４７を切断して任意の切除部４２２を切除することで、該切除部４２２が切除された部分を引出口４６とすることができる。このように引出口４６を梱包箱４の一部を切除して形成することで、利用前においては図８に示されるように引出口４６が形成される部分を切除部４２２で閉塞することができ、梱包箱４内にごみや埃等が入り込み難くなる。

【００３１】
梱包箱４内のパッド３に巻き取られた幅木２は、図１に示されるように引出口４６に対向する外周部から引出口４６を通して梱包箱４の外部へと導出することができる。また、このように引出口４６から導出された幅木２の端部を作業者が引っ張ることで、パッド３及びこれに巻き取られた幅木２を梱包箱４内で回動させながら、この幅木２を引出口４６から梱包箱４の外に引き出すことができる。梱包箱４内の幅木２及びパッド３は、梱包箱４の四方の端面板部４２で外側へ移動することが規制され、また、梱包箱４の上面板部４０及び下面板部４１で上下方向の移動が規制される。このため、梱包箱４から幅木２を引き出すときには、パッド３及びこれに巻き取られた幅木２を梱包箱４内でスムーズに回動させることができる。

【００３２】
作業者は梱包箱４に梱包された幅木２を例えば以下のように建物の壁５に施工する。まず、作業者は、図９に示されるように壁５において幅木２を取り付ける箇所に接着剤５０を塗布する。この壁５は壁下地５１（図６参照）に壁紙５２（図６参照）が貼り付けられたものであってもよいし、壁紙５２が貼り付けられる前の壁下地５１であってもよい。以下では、壁紙５２が貼り付けられる前の壁下地５１に幅木２を施工する例につき説明する。幅木２を壁５に接着する接着剤５０としては例えば変性酢酸ビニル系接着剤が用いられる。接着剤５０は壁５において床６から上方に少し離れた幅木２の上部に対応する部分にのみ塗布される。

【００３３】
次に作業者は図１０に示されるようにパッド３に巻き取られた状態で梱包箱４内に収納された幅木２を引出口４６から引き出しながら、幅木２の裏面の上部を接着剤５０を介して壁５に貼り付けていく。また、この際、壁５に貼り付けられた幅木２の凹溝２００の底部に長手方向に間隔を介して固着具７を順次打ち込み、これによって幅木２を壁５に固定していく。

【００３４】
固着具７としてはピンネイル７０が用いられる。なお、固着具７としては、施工後における外観を良くするため、頭部を有するフィニッシュネイルを用いず、頭部の無いピンネイル７０のみを用いるのがよい。ピンネイル７０を打ち込む作業は、ピンネイラーと呼ばれるピン打機を用いて行われる。すなわち、ピン打機を用いて凹溝２００の底部にピンネイル７０を打つ込むには、作業者はピン打機の先端部を本体部２０の表面側から凹溝２００の底部に向け、ピン打機を操作してピン打機の先端部からピンネイル７０を打ち出す。このように打ち出されたピンネイル７０は本体部２０を通して壁５に打ち込まれる。これにより幅木２は壁５に固定され、接着剤５０が硬化する前において壁５から剥がれ難くなる。ピンネイル７０は凹溝２００の底部から前方に突出しないように本体部２０に打ち込まれる。ここで、ピン打機を用いて凹溝２００の底部にピンネイル７０を打ち込むとき、

ピン打機の先端部の向きが多少ずれたとしても、ピン打機から打ち出されたピンネイル７０を凹溝２００の傾斜したガイド面２０１で凹溝２００の底部側に導くことができる。このため、凹溝２００の底部に確実にピンネイル７０を打ち込むことができる。

【００３５】

また、幅木２は図６に示されるようにひれ状部２１の下端部を床６に押し付けた状態で壁５に固定される。このため、ひれ状部２１の弾性変形により床６の不陸を吸収して、幅木２を長手方向を水平にした状態で壁５に固定することができる。

【００３６】

また、幅木２は梱包箱４の底面部を下に向けた状態で梱包箱４から引き出される。このようにすることで、梱包箱４内の幅木２を施工状態と同様にひれ状部２１を下に向けた状態で引き出すことができる。このため、幅木２を壁５に貼り付けるにあたって幅木２の向きを変更する手間を省くことができる。

【００３７】

前記幅木２の接着剤５０及び固着具７を用いた壁５への施工は、壁５の端部付近又は隅部付近に至るまで行われる。次に作業者は、幅木２の壁５の端部や隅部に対応する箇所、例えば図１０において二点鎖線で示される箇所を、電気丸のこや、手のこ、はさみ、カッターナイフ等の切断具を用いて切断する。そして、この幅木２の切断側部分を前記同様接着剤５０及び固着具７を用いて壁５に固定する。これにより、幅木２は壁５に取り付けられる。

【００３８】

幅木２の施工後には、幅木２の上方の壁下地５１に図６に示される壁紙５２が貼り付けられる。この壁紙５２の下端縁は、例えばカッターナイフを幅木２の傾斜面２０３に沿わせながら幅木２の長手方向に移動させることで、傾斜面２０３の下縁部に沿って切断される。また、壁５（詳しくは壁紙５２の下縁部）と傾斜面２０３との間には上方に開口する断面三角形状の隙間５３が形成されるが、この隙間５３には壁紙５２の下縁部の浮き上がりを防止するためコーキング材５４が充填される。

【００３９】

また、隅部を有する壁５に幅木２を施工する場合、幅木２を壁５の隅部に沿って直角に屈曲させることが困難となる。このため、隅部を有する壁５に幅木２を施工する場合、図１３や図１４に示されるように隅部を挟んだ両側の壁５の夫々に別の幅木２を施工するのがよい。ここで、本実施形態の幅木２は、図１３や図１４に示されるように、隅部を介して隣接する他の幅木２に接続具８を介して仕舞い良く接続できるようになっている。

【００４０】

接続具８は幅木２よりも曲げ弾性率が大きく、曲がり難い硬質な材料で形成されている。この接続具８としては、図１１に示される入隅用の接続具８０と、図１２に示される出隅用の接続具８１の二種類がある。接続具８０、８１は、共に、カバー片部８２、上片部８３、連結片部８４、及び突片部８５を有している。

【００４１】

接続具８０、８１のカバー片部８２は縦長であって水平断面Ｌ字状に形成されている。図１１に示されるように入隅用の接続具８０のカバー片部８２はその表面側に平面視で直角の角部が形成されている。図１２に示されるように出隅用の接続具８１のカバー片部８２はその裏面側に平面視で直角の角部が形成されている。接続具８０、８１のカバー片部８２は直角に接続された両側の縦片部８２０で構成されている。

【００４２】

接続具８０、８１の上片部８３はカバー片部８２の上縁から裏面側に向けて突出している。接続具８０、８１の上片部８３は直角に接続された両側の横片部８３０で構成されており、平面視でカバー片部８２に沿うＬ字状に形成されている。カバー片部８２及び上片部８３を設けることで、接続具８０、８１の両側には縦片部８２０とこれに接続された横片部８３０とで構成された被嵌部８７が夫々形成される。

【００４３】

接続具８０、８１の連結片部８４はカバー片部８２の両側の縦片部８２０に夫々設けられている。各連結片部８４は縦片部８２０の下部から裏面側に向かって突出している。各接続具８０の突片部８５は各連結片部８４に設けられている。各突片部８５は連結片部８４の裏面側端部からカバー片部８２の外側方に向かって突出しており、対応する縦片部８２０と平行である。各突片部８５は対応する縦片部８２０の表面側から見たときに縦片部８２０よりも外側方に突出している。各突片部８５と対応する縦片部８２０の間には外側方に開口する嵌込溝８６が形成されている。

【００４４】

作業者は接続具８を用いて幅木２の端部同士を接続する場合、例えば以下の施工を行う。なお、以下では入隅用の接続具８０を用いる例について説明するが、出隅用の接続具８１を用いる場合も同様である。また、以下では前述のように壁５に対して接着剤５０及びピンネイル７０を用いて固定された第一の幅木２の終端部（切断側端部）に、隅部を介して隣接する第二の幅木２３の始端部を接続する例につき説明する。以下、特に区別する場合には、第一の幅木２２、第二の幅木２３と記載する。

【００４５】

まず、接続具８０を第一の幅木２２の終端部と第二の幅木２３の始端部に取り付ける。なお、第一の幅木２２は前述のように隅部付近までの部位が接着剤５０及び固着具７を用いて壁５に固定された状態でその切断側端部である終端部が接続具８に取り付けられる。すなわち、第一の幅木２２は隅部付近まで接着剤５０及び固着具７を用いて固定された後、切断具によって壁５の隅部に対応する位置で切断され、この切断側端部が接続具８に取り付けられる。また、第二の幅木２３は梱包箱４の引出口４６から引き出される幅木２である。例えば第二の幅木２３としては第一の幅木２２を切断した後に梱包箱４に残る幅木２が用いられる。すなわち、この場合、梱包箱４に残る幅木２の切断側端部が接続具８に取り付けられる。

【００４６】

第一の幅木２２を接続具８０に取り付けるには、作業者は予め接続具８０の対応する縦片部８２０の裏面、対応する横片部８３０の下面、及び対応する突片部８５の表面に接着剤を塗布しておく。次に作業者は接続具８０の一方の被嵌部８７に第一の幅木２２の終端部を外側方から挿入する。これにより、当該被嵌部８７によって第一の幅木２２の終端部が被嵌される。また、これにより、接続具８の一方の縦片部８２０の裏面は同面に塗布された接着剤を介して第一の幅木２２の終端部の表面に接着される。また、接続具８の一方の横片部８３０の下面は同面に塗布された接着剤を介して第一の幅木２２の終端部の上端面に接着される。また、第一の幅木２２の終端部における凹部２０２に接続具８の一方の突片部８５が嵌め込まれ、第一の幅木２２の終端部の下部が接続具８の一方の嵌込溝８６に外側方から嵌め込まれる。また、これにより、接続具８０の一方の突片部８５の表面が第一の幅木２２の凹部２０２の奥面に接着剤を介して接着される。

【００４７】

第二の幅木２３を接続具８０に取り付けるには、作業者は予め接続具８０の対応する縦片部８２０の裏面、対応する横片部８３０の下面、及び対応する突片部８５の表面に接着剤を塗布しておく。次に接続具８の他方の被嵌部８７に第二の幅木２３の始端部を外側方から挿入する。これにより、当該被嵌部８７によって第二の幅木２３の始端部が被嵌される。また、これにより、接続具８の他方の縦片部８２０の裏面は同面に塗布された接着剤を介して第二の幅木２３の始端部の表面に接着される。また、接続具８の他方の横片部８３０の下面は同面に塗布された接着剤を介して第二の幅木２３の始端部の上端面に接着される。また、第二の幅木２３の始端部における凹部２０２に接続具８の他方の突片部８５が嵌め込まれ、第二の幅木２３の始端部の下部が接続具８の他方の嵌込溝８６に外側方から嵌め込まれる。また、これにより、接続具８０の他方の突片部８５の表面が同面に塗布された接着剤を介して第二の幅木２３の凹部２０２の奥面に接着される。

【００４８】

このように接続具８０を第一の幅木２２の終端部と第二の幅木２３の始端部に取り付け

た後、接続具８０、第一の幅木２２の終端部、第二の幅木２２の始端部を図１５に示されるように壁５の隅部に取り付ける。この取付けの前には、予め接続具８０の両突片部８５の裏面に接着剤を塗布しておく。また、壁５において第一の幅木２２の終端部の上部に対応する部分、及び第二の幅木２３の始端部の上部に対応する部分にも予め接着剤を塗布しておく。そして、作業者は第一の幅木２２及び第二の幅木２３が接続された接続具８を壁５の隅部に沿わせる。これにより、第一の幅木２２の終端部の上部裏面及び第二の幅木２３の始端部の上部裏面は、隅部を挟んだ両側の壁５に接着剤を介して接着される。また、接続具８の両突片部８５の裏面も同面に塗布された接着剤を介して壁５に接着される。この後、作業者は第一の幅木２２の終端部（接続具８で覆われていない部分）を凹溝２００にピンネイル７０を打ち込むことで壁５に固定し、また、第二の幅木２３の始端部（接続具８で覆われていない部分）を凹溝２００にピンネイル７０を打ち込むことで壁５に固定する。

【００４９】

なお、接続具８０を用いた幅木２の施工は前記に限定されるものではない。例えば、第一の幅木２２の終端部を接続具８０に取り付け、この第一の幅木２２を接続具８０と共に壁５に取り付け、この後、接続具８０に第二の幅木２３の始端部を取り付け、この第二の幅木２３を壁５に取り付けてもよい。

【００５０】

以上説明した本実施形態の幅木梱包品１は、湾曲変形可能で且つ切断可能な帯状の幅木２と、ロール状に巻いた幅木２を収納する梱包箱４を備えている。この構成により、ロール状に巻いた幅木２をその外側を梱包箱４によって支持した状態で梱包箱４に収納することができ、幅木２を小さくロール状にした状態で保管することができる。また、これにより幅木２の施工や持ち運びが容易になる。また、幅木２は梱包箱４に収納して汚れ難い状態で保管することができる。また、梱包箱４は梱包箱４に巻かれた状態で収納された幅木２を引き出すための引出口４６を有している。このため、幅木２を施工する際には、梱包箱４に巻かれた状態で収納された幅木２を引出口４６から引き出しながら壁５に取り付けることができ、施工が容易になる。

【００５１】

また、本実施形態では、曲げ弾性率が１４００ＭＰａ以上１６００ＭＰａ以下の幅木２を梱包箱４に収納することができる。

【００５２】

また、本実施形態の幅木２は内径寸法が８００ｍｍ以上１０００ｍｍ以下として巻かれた状態で梱包箱４に収納される。このため、幅木２を巻き癖がつき難く且つコンパクトにした状態で梱包箱４に収納することができる。

【００５３】

また、本実施形態の幅木梱包品１は幅木２が巻き取られるパッド３を備え、幅木２がパッド３に巻き取られた状態で梱包箱４に収納される。このため、巻かれた状態の幅木２をパッド３により内側から支持し、これにより幅木２をがたつき難い状態で梱包箱４に収納することができる。

【００５４】

また、本実施形態の幅木２はその表面を外側に向けて巻かれた状態で梱包箱４に収納されるため、幅木２にはその裏面側に突となるような巻き癖がつき難くなる。このため、幅木２を壁５に沿わせた場合に幅木２の先に壁５に沿わせた部分が壁５から浮き上がり難くなる。すなわち、幅木２にはその表面側に突となるような巻き癖がつくが、幅木２の梱包箱４から引き出した直後の部分を壁５に沿わせた場合、幅木２の先に壁５に沿わせた部分が幅木２の巻き癖によって壁５を押圧するようになる。このため、幅木２の施工が容易になる。

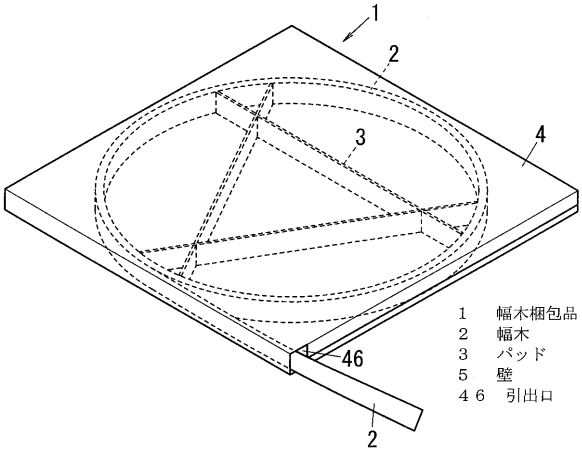
【００５５】

また、本実施形態の幅木２の施工方法にあっては、幅木２を梱包箱４の引出口４６から引き出しながら壁５に接着することができる。このため、幅木２の施工が容易になる。

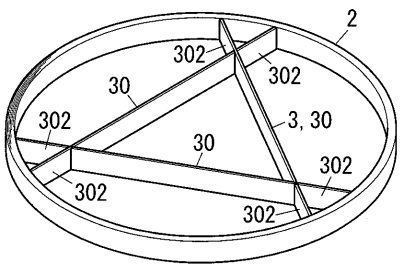
【００５６】
　また、本実施形態では壁５に接着された幅木２にピンネイル７０を打ち込んで壁５に固着する。このため、壁５に接着された幅木２が接着剤５０が硬化する前に壁５から浮き上がったり、剥がれたりすることを防止できる。
【００５７】
　また、本実施形態では引出口４６から引き出された幅木２を壁５の隅部又は端部に対応する部分で切断する。このため、施工する壁５の幅にかかわらず、幅木２を壁５の隅部又は端部に至るまで施工することができる。
【００５８】
　なお、幅木２は接続具８を用いずに隅部を有する壁５に施工することも可能である。この場合は、例えば隅部を挟んで両側に位置する幅木２を切断端面が平面視で幅木２の厚み方向に対して４５度傾斜するように切断し、この端面同士を突き合わせた状態で幅木２を壁５に取り付ければよい。
【００５９】
　また、本実施形態の幅木２は曲げ弾性率が１４００ＭＰａ以上、１６００ＭＰａ以下のものであるが、幅木２の曲げ弾性率は前記の範囲を外れるものであってもよい。また、梱包箱４の形状は正方形に限定されるものではなく、正方形を除く長方形や円形、多角形に形成してもよい。
【００６０】
　また、図２に示されるパッド３は各支持片３０を直線状にしたものであるが、図１７に示されるように各支持片３０の支持部３０２となる両端部を折り曲げ、この折曲部分でパッド３に巻き取られた幅木２を内側から支持するようにしてもよい。このようにすると、パッド３から幅木２が引き出されて巻き取られた幅木２の内径寸法が大きくなったときに、支持片３０の両端部の折曲部分の曲げ戻しによって、支持片３０の両端部を巻き取られた幅木２の内側に接触するようにできる。このため幅木２の使用量にかかわらず各支持片３０の両端部で巻き取られた幅木２の内側を常に支持することが可能となる。
【００６１】
　なお、本実施形態では幅木２をパッド３に巻き付けた後に梱包箱４に収納するようにしたが、巻いた状態の幅木２を梱包箱４内に配置し、この幅木２の中心にパッド３を嵌め込んでも構わない。さらに、パッド３は本実施形態のものに限定されるものではない。例えば、パッド３は複数の支持片３０を四角形以上の略多角形状をなすように連結することで形成してもよい。また、本実施形態のパッド３は同一円周上における６箇所の支持部３０２で幅木２の内側を支持するものであるが、同一円周上の三箇所以上（６箇所除く）の支持部で幅木２の内側を支持するものであってもよい。また、パッド３は幅木２を内側から支持する円形の外周面を有するものであってもよい。また、本実施形態ではパッド３にロール状に巻いた幅木２を梱包箱４に収納したが、パッド３を省略し、ロール状に巻いた幅木２を梱包箱４の四方の端面板部４２で外側のみを支持した状態で梱包箱４に収納してもよい。
【００６２】
　また、本実施形態では凹溝２００の下側の溝側面のみを傾斜させたが、図１６に示されるように凹溝２００の上側の溝側面を凹溝２００の溝奥側に行く程下方に位置するように傾斜させてもよい。また、凹溝２００の上側の溝側面のみを凹溝２００の溝奥側に行く程下方に位置するように傾斜させてもよい。また、凹溝２００の両溝側面は本体部２０の幅方向と直交するものであってもよい。また、本実施形態では幅木２を壁５に固定する固着具７としてピンネイル７０を用いたが、フィニッシュネイル等その他の固着具を用いて構わない。また、この他、本発明は前記し且つ図面に示した実施形態にのみ限定されるものではなく、要旨を逸脱しない範囲内で適宜変更して実施し得るものである。
【符号の説明】
【００６３】
　１　幅木梱包品

２　幅木
３　パッド
４　梱包箱
５　壁
４６　引出口
７０　ピンネイル

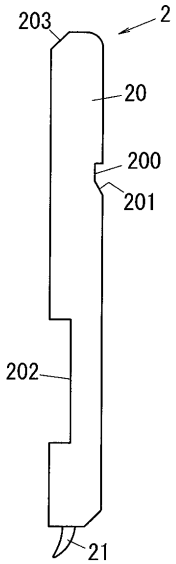
【図１】



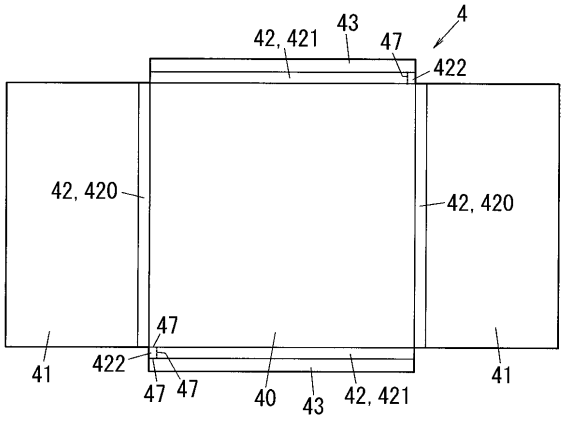
【図２】



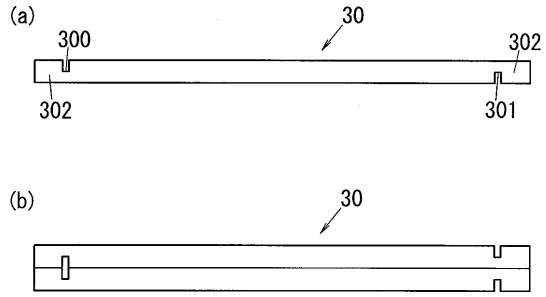
【図３】



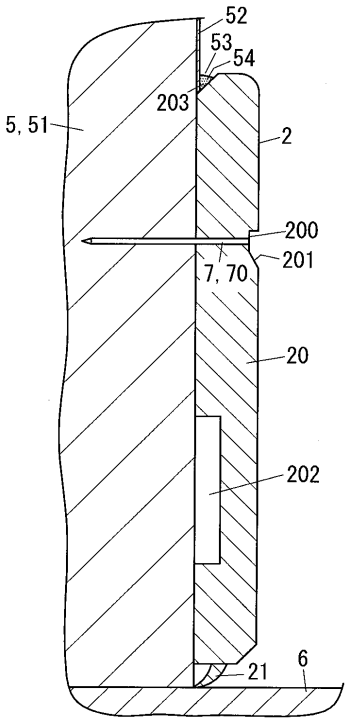
【図４】



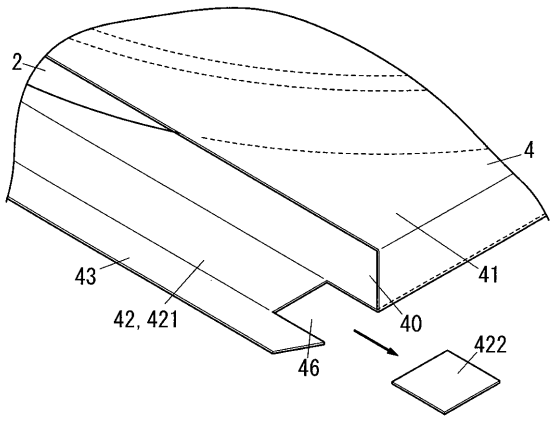
【図５】



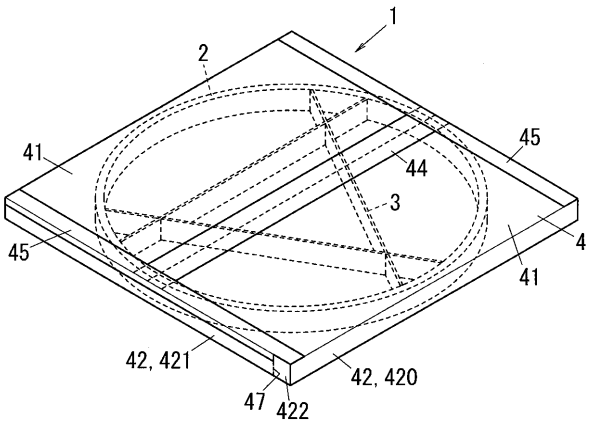
【図６】



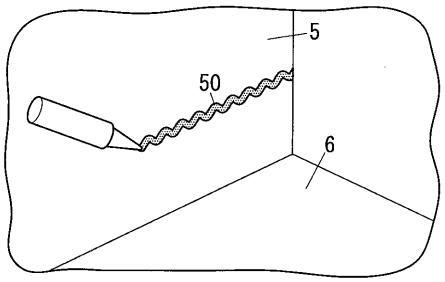
【図７】



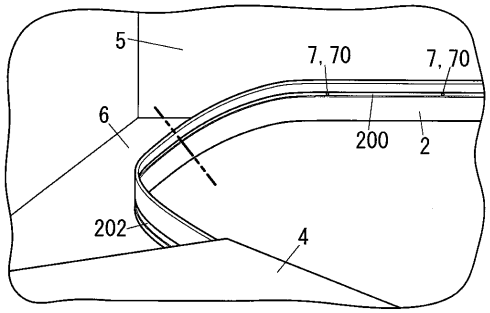
【図８】



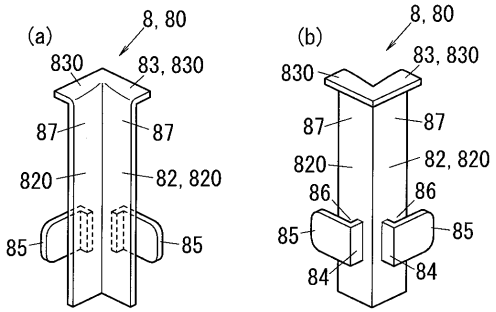
【図９】



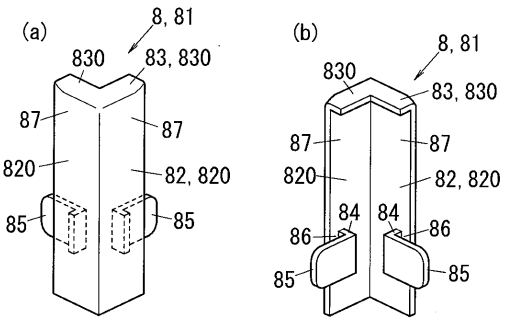
【図１０】



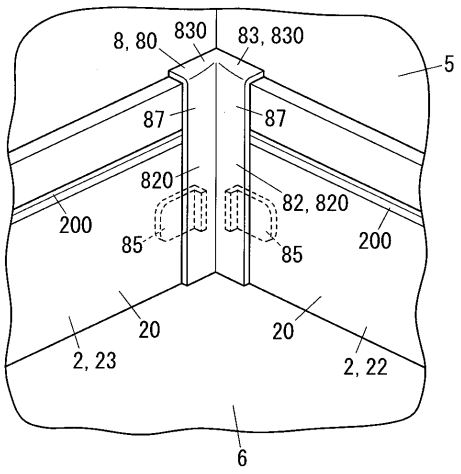
【図１１】



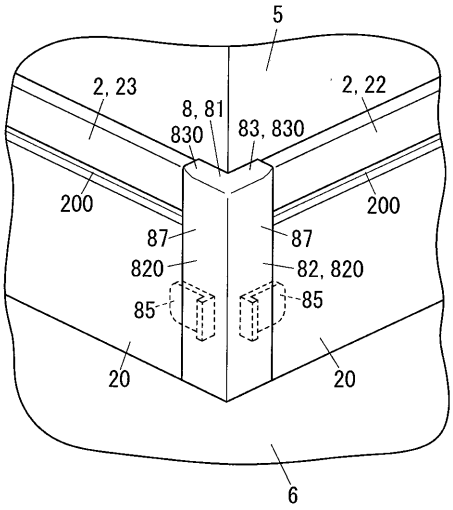
【図１２】



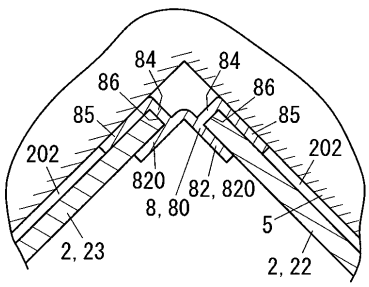
【図１３】



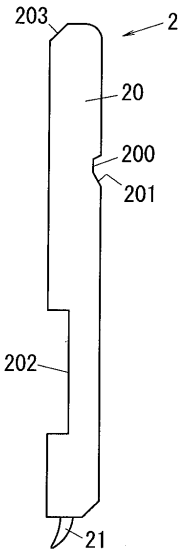
【図１４】



【図１５】



【図１６】



【図１７】

